

WKCフォーラム

高齡化するアジア、そして世界で期待される福祉用具の役割

Role of Assistive Technology in Rapid Ageing in Asia and the World

13:00-13:05 フォーラム開会挨拶 Sarah Louise Barber WHO 神戸センター所長

第一部：講演

13:05-13:50

デンマーク人から見た”支援のある生活” —高齡化にまつわる問題に着目して—
Assisted Living in a Danish Perspective - with special focus on the ageing population and related challenges.



講演者: Henrik Hjorth 氏 (Creative Impact, Denmark)

講演概要

この講演では主にデンマーク人の観点から高齡化について以下の4つの側面に焦点を当てる。1. 文化と政策、2. 製品(用具)と製造、3. 教育と社会構造、そして4. 公民権である。スカンジナビア社会福祉モデルに代表される、強力な地方分権化と対話に基づく開発を合わせ持つ文化的・社会的政策を詳しく解説する。いくつものケースを示すことで、直面する現状を明らかにし、将来の可能性や選択肢についても述べる。

第二部：報告

13:55-14:55

障害のある人への国際支援、生活の中で活かされる福祉用具 in アジア
—福祉用具を活用した自立支援—

International cooperation to support independent living in Asia utilizing assistive technologies

報告1 人材育成の効果

奥平 真砂子氏(公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会)

概要

一企業が社会貢献として35年以上にわたり実施する障害者リーダー育成事業がある。それが日本だけでなく、アジアの障害者も育成し、大きな成果を上げている。
その研修で育った一人のパキスタンの障害者が、アメリカ生まれの障害者の自立生活運動を自国で始めて、日本の障害者たちの支援を受けてそれを広げ、電動車いす普及プロジェクトを展開している。
そこで、まず研修について説明し、パキスタンの活動を振り返り、人材育成の重要性について述べる。

報告2 さくら車いすプロジェクトの活動報告

篠田 浩之氏(さくら車いすプロジェクト)

概要

当会は2005年のパキスタン地震被災地に車椅子製作技術の提供から始まり、現在不要になった電動車椅子を日本全国から提供いただき、パキスタンの障害者自立センターにコンテナで送り、障害者達に車椅子の整備やシーティング技術を伝承している。2011年に第1回の送付とセミナーを開催し、これまで520台の送付と15回程のセミナー、またネパールやモンゴル等、次の候補国を交えた交流会を開催している。

報告3 アジア姿勢保持プロジェクトがめざすもの

松本 和志 氏(アジア姿勢保持プロジェクト(ASAP))

概要

40年にわたる独自の発展を遂げた、日本の工房方式による姿勢保持具づくり。その根源であり最大の財産は、徹底して障がい当事者や家族に寄り添った、日常生活中心でコミュニティベースの、生きるための技術の積み重ねである。本プロジェクトはタイ・ラオスでの活動を通じて、アジア各国でもそれが求められていると確信し、人びとと共有し学び合うことを通じて、姿勢保持が日常生活に定着することを目指している。